老人クラブ「100 万人会員増強運動」の総括と今後の方向

～老人クラブの有効性をアピールしよう！～

公益財団法人 全国老人クラブ連合会
事務局長　　正　立　　斉

１．運動の概要

①　スローガン：総力を結集して 全国 100 万人会員増強を達成しよう！
　○ 高年パワー ⇒ 75 歳以上の高齢者は 1,500 万人。会員増強の中心世代
　○ 女性パワー ⇒ 老人クラブ会員の６割は女性。結束して勧誘活動を強化
　○ 若手パワー ⇒ 若手高齢者も 1,500 万人。魅力ある活動は自らが創造

②　実施期間：平成 26 年度～30 年度（５か年）

③　運動目標：全国 100 万人の会員増強
　○ 提案１ ⇒ 年間およそ３％増で 97 万人
　○ 提案２ ⇒ 年間１クラブ２名純増で 111 万人
　○ 提案３ ⇒ 年間１市町村３クラブ（40 名）の新設で 104 万人

④　共通実施運動：３つの取り組み
　１．勧誘から始めよう！（会員一人ひとりが勧誘の担い手です）
　２．クラブをＰＲしよう！（知られていますか、あなたのクラブ）
　３．クラブをつくろう！（すべての地域にクラブの設置を）

⑤　独自プランの設定：都道府県・指定都市老連、市町村老連、単位クラブ

２．運動の結果（暫定）

(1) 目標と結果

【全　国】目 標：100 万人の増強 → 結 果：105 万人（18%）の減少
【府老連】目 標：　4 万人の増強 → 結 果：3.3 万人（14.6%）の減少
（減少率：14 位／62 都道府県・指定都市）

(2) 会員数の推移（運動開始時～最終年次）

（単位：人）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
全　国	5,823,616 — (100.0%)	5,634,029 △189,587 (96.7%)	5,444,919 △189,110 (93.5%)	5,248,461 △196,458 (90.1%)	5,007,400 △241,061 (86.0%)	4,773,387 △234,013 (82.0%)
府老連	227,267 — (100.0%)	221,910 △5,357 (97.6%)	215,066 △6,844 (94.6%)	209,060 △6,006 (92.0%)	200,692 △8,368 (88.3%)	194,009 △6,683 (85.4%)

＊表中、中段は対前年比増減数、カッコ内は運動開始時を 100 とした会員数の割合。

３．運動の分析・評価

数値実績とアンケート調査の結果をもとに分析・評価を行った。

(1) 数値実績（５か年の実績）から

○ すべての都道府県・指定都市で会員が減少（別紙参照）。

○ 減少率の最大は△37.4%、最少は△7.4%と地域差が大きいが、「都道府県と指定都市」また「都市部と地方」による有意差は見られない。

○ 市町村段階では、110（5.9%）／1,881 の連合会で５年前より会員が増加（大阪府は４老連）。５か年連続して会員数増は 11 老連（大阪府は１老連）。

○ 単位クラブの解散・休会による会員減にとどまらず、脱会クラブや脱会市町村老連が実績に影響した可能性も考えられる。

(2) アンケート調査の結果から

１）回収率

○ 単位クラブからの回収率が８割を超えるのに対し、市町村老連からの回収率は６割を切っており、過去類似の調査と比較して回収率が低い。

調査対象	対象数	回収数（率）
① 都道府県・指定都市老連	63 老連（全数）	63 老連（100%）
② 市町村老連(区老連を含む)	611 老連（約 1/3 抽出）	365 老連（59.7%）
③ 単位クラブ	997 クラブ(約 1%抽出)	805 クラブ(80.7%)

２）運動の周知度と取り組み状況

○ 単位クラブでは、「運動を知らなかった」（10.3%）、「運動に取り組んでいない」（7.2%）であった。

○ 市町村老連においては、「運動開始時に運動を知らなかった」（11.3%）、「運動を実施していない」（7.9%）であった。

○ 周知の不徹底、また運動の未実施は、単位クラブ、市町村老連ともに合わせて２割弱で、運動が十分周知されていたとはいえない。

３）「数値目標」の設定

○「数値目標」を設定しているのは、市町村老連で５割強、単位クラブで２割にとどまっている。

○ 調査では、「数値目標」の有無が運動への関心度や取り組みに大きな影響を及ぼしている結果となっている。

４）取り組み状況の把握

○ 都道府県・指定都市老連では、年１回、市町村老連からの実績報告書の提出により取り組み状況を把握しているのが一般的であるが、運動の「推進体制づくりをしていない」老連では、報告書の提出によらない方法（会議や行政報告等）での把握の割合が高くなっている。

○ 市町村老連では、２割弱が単位クラブの取り組み状況を把握していなかった。推進体制の有無でみると、「体制あり」で把握していないのは 8.5%であったのに対し、「体制なし」では 23.8%となっており、大きな差がみられる。

○「実績報告によらない把握」や「一部把握していない」という状況が明らかになったが、このことは運動成果の集約に支障をきたす実態を示している。

5）独自プランの設定

○ 運動では、共通実施運動（①勧誘、②クラブのＰＲ、③クラブの新設）に加え、それぞれの段階における独自プランの設定を呼びかけたが、プランを設定したのは市町村老連で 16.1%、単位クラブで 9.8%と低調であった。

○ 独自プランの内容は、市町村老連では「解散クラブの防止」「行政や自治会との連携」「未加入者も参加できる活動の実施」、また単位クラブでは「自治会・町内会との連携」「活動やイベントを通じた勧誘」などであった。

6）運動の担い手（誰が）

○ 運動の推進役は、「会長・役員が中心となって」（66.9%）、「会員みんなで」（29.2%）であった。

○ 運動では、高年・若手・女性の会員全員が一丸となっての取り組みを提唱したが、会長や役員に依拠した取り組みが大半を占める結果となっている。

7）加入対象（誰に）

○ 加入対象としたのは、「60 歳以上」が４割弱、「65 歳以上」が３割強となっており、全体の７割が 60 代以上を対象に運動をすすめている。

○ 一方、前年比会員増を果たした市町村老連の調査（30 都道府県・指定都市老連からの報告）では、「75 歳以下」の加入が約６割、「75 歳以上」の加入が約４割で、運動年次を重ねるほど 75 歳以上の加入比率が増加する傾向がみられた。

8）運動の方法（どのように）

○ 具体的な運動方法では、「友人・知人への声かけ」（68.3%）が最も多く、次いで「活動や行事への参加呼びかけ」（40.3%）、「自治会・町内会を通じたＰＲ」（32.1%）の順であった。

○ 近隣の人間関係をとおした呼びかけ、地域組織との連携といった基本的な取り組みが上位を占めている。

9）運動に役立った情報

○ 市町村老連では、役立った情報のトップに「優良事例の紹介」（66.4%）を挙げている。一方、単位クラブでは「実施要綱」（41.4%）がトップで、次いで「運動の手引き」（28.2%）、「優良事例の紹介」（27.6%）の順となっている。

○ 都道府県・指定都市老連では８割以上が「優良事例の提供」を行っているのに対し、市町村老連においては３割強にとどまっていることから、大きな差が生じたものと考えられる。

10）取り組みの支援

○ 市町村老連では、都道府県からの「支援がある」と回答したのは９割弱で、具体的には「加入促進に関する教材やチラシ等の提供」（62.6%）、「優良事例等の情報提供」（62.3%）、「学習機会や情報交換の場の提供」（52.5%）などであった。

○ 一方、単位クラブでは、都道府県からの「支援がある」と回答したのは７割にとどまり、約１／４が「支援がない」と回答している。数値目標の有無でみると、「数値目標を設けている」クラブでは「支援がない」と回答したのは１割に満たないことから、数値目標の有無が市町村と単位クラブ相互の連携・協力関係にも影響していることがうかがえる。

11）会員増強に最も効果のある方法（効果予測）

【都道府県・指定都市老連の回答】

○ 単位クラブで効果のある方法として、「友人・知人への声かけ」（54.0%）、「地域組織・団体との連携」（19.0%）、「地域住民への個別訪問」（17.5%）、を挙げている。

○ 市町村老連で効果のある方法では、「解散・休会クラブの防止」（36.5%）、「未加入者も参加できる体験型の事業や行事の実施」（23.8%）、「新規クラブの立ち上げ」（12.7%）などとなっている。

【市町村老連の回答】

○ 単位クラブで効果のある方法として、「友人・知人への声かけ」（56.6%）、「活動や行事への参加呼びかけ」（16.4%）、「地域住民への個別訪問」（13.5%）を挙げている。

○ 市町村老連自体の取り組みでは、「未加入者も参加できる体験型の事業や行事の実施」（24.6%）、「解散・休会クラブの防止」（13.7%）「加入促進に関する教材やチラシ等の作成・提供」（10.2%）、「優良事例等の情報提供」（9.9%）などとなっている。

【単位クラブの回答】

○ 単位クラブでは、効果のある方法として「友人・知人への声かけ」（52.2%）、「活動や行事への参加呼びかけ」（24.2%）、「地域住民への個別訪問」（10.9%）を挙げている。

12）会員減少の最も大きな要因

○ 会員減少の最も大きな要因について、都道府県・指定都市老連では「クラブの解散・休会」（63.5%）、「クラブの脱会」（15.9%）、市町村老連では「会員の自然減」（37.7%）、「クラブの解散・休会」（34.3%）を挙げている。

13）運動に協力を得ている地域組織・団体

○ 会員増強運動に際して協力を得ている地域の組織や団体について、「ある」が７割、「ない」が約１／４であった。

○ これを市町村老連からの支援の有無別にみると、「支援がある」クラブでは約８割が地域組織・団体から協力を得ているのに対し、「支援がない」クラブでは半数近くが協力を得られていない。

○ 取り組みにあたり、市町村老連からの支援、また地域組織・団体からの協力のいずれも得られていないクラブが相当数あることが明らかとなった。

４．総括と今後の方向

(1) 市町村老連再生に向けた取り組み

○ 本調査の「回収率」「運動の周知不足や未実施」「情報提供のあり方」等から、市町村老連の役員・事務局体制の弱体化、またそれにともなう機能低下が懸念される結果となった。

○ 単位クラブ活動を活性化するうえで、また都道府県・指定都市老連と単位クラブをつなぐ調整役としての要となる市町村老連の「再生」に向けた取り組みが、今後の老人クラブ組織の維持・発展には不可欠であると思われる。

(2)「会員みんな」で取り組む意識づくり

○ アンケートの結果から、会長や役員中心の運動となったことが明らかになった。

○ クラブの解散理由の主要因として「役員のなり手不足」がいわれおり、この運動に限らず、特定の会員に負担が集中することのないような意識づくりと役割分担が求められる。

(3) 推進体制づくりと目標・情報の共有化

○ 運動の推進にあたり、「体制づくりをした」「数値目標を設けた」と回答した連合会やクラブでは、それらを行わなかったところと比較して積極性がみられ、実績においても優位性があった。

○ 運動を主体的に捉え、推進方策の検討や状況把握を行う体制づくり、目標や優良事例などの情報を共有化することが、単位クラブや会員の意欲・積極性を引き出すことにつながるものと考えられる。

(4) 幅広い年代層を対象にした加入の呼びかけ

○ 60 歳代の若手高齢者を対象に加入促進をすすめたクラブも少なくないが、加入増を達成した市町村では 75 歳以上の新規加入者が約４割あり、年次を重ねるごとに増加する傾向がみられた。

○ 今後、働き方改革にともない就労する 60 代高齢者の一層の増加が見込まれることから、加入対象者の年齢層を幅広く捉えていくことが必要であると思われる。

(5) 地道な勧誘活動が有効

○ 調査結果からは、新たな会員増の有効策は見受けられず、「友人・知人への声かけ」「活動や行事への参加呼びかけ」「地域住民への個別訪問」など、直接的な働きかけが有効であったとの結果であった。

○ 過去、複数の自治体で行われた非会員への「老人クラブへの未加入の理由」を問う調査では、「勧誘されたことがない」という回答が最も多かったことから、引き続き「声かけ」や「参加呼びかけ」などの勧誘を行っていくことが、取り組みの基本であると考えられる。

(6)「独自の運動目標・計画」で主体的な運動展開を

○ この度の運動では、全国共通運動（①勧誘、②クラブのＰＲ、③クラブの新設）に加え独自プランの設定を提唱したが、低調であった。

○ 各都道府県・指定都市、市町村によって運動結果に地域差がみられることから、今後は、地域の状況や課題をふまえた独自の目標・計画をもとに、主体性のある運動展開を図っていくことが重要であると思われる。

(7) 都道府県・指定都市老連ごとの分析・評価を

○ 全老連では、全国の老人クラブ関係者の協力を得てアンケート調査を実施し、分析・評価と総括を行うことができた。

○ 今後は、各都道府県・指定都市老連ごとの分析手法や評価によって、全国的な傾向との相違点等を明らかにし、それぞれの活動展開に資していただくとともに、得られた情報を提供していただき、全国的な加入促進、活動の活性化に生かしていきたい。

５．全老連としての今後の取り組み

５か年にわたる運動は終了したが、会員増強は組織としての継続的な取り組み課題である。全老連では、老人クラブの意義や有効性への理解を深め、健康づくり・介護予防活動や友愛活動など具体の活動をとおした会員増強運動に資するため、次のような資料を作成・提供していく予定である。

(1) 老人クラブの意義・有効性をアピールする資料

『組織活動は健康長寿の秘訣－老人クラブの有効性が明らかに－』

(2) 具体の活動を推進する資料

① 健康づくり・介護予防活動
健康を保持・増進するフレイル（虚弱）予防に関する資料（本年度作成予定）

② 友愛活動
『老人クラブがめざす友愛活動』

おわりに

○ 老人クラブ活動発展の鍵は「リーダー」にあり

○ 仲間とともに、明るく、楽しい活動を